

「総合的な学習の時間」を支援



基本教練の様子
(久里浜中学校生徒)



艦艇見学
(追浜中学生徒)

神奈川地方協力本部横須賀地域事務所(所長 大里3海佐)は、11月11日(水)から13日(金)の3日間、横須賀市内の浦賀中学校、久里浜中学校、追浜中学校3校に対する「総合的な学習の時間」を支援した。

横須賀市の中学生は、自衛隊関係者の子弟も多く、地元横須賀の部隊での学習であったため、駐屯地に入門すると一気に緊張感に包まれ自衛官の服装や動きに注目していた。

陸上自衛隊久里浜駐屯地での学習では、部隊紹介、基本教練、リーダー器材の説明があり、護身術の体験がおこなわれた。また、装備品の性能などが紹介されると、珍しい機械の精密さに驚いていた。横須賀地方総監部等の海上自衛隊では、艦艇見学をした後、タグボートで湾内の説明を受けながらクルージングを体験し、生徒たちは陸・海自衛隊の特色を知り、とても満足した様子で今回の総合学習を終了することができた。

横須賀地域事務所は、「今後も、「総合的な学習の時間」を通じて、将来自衛官を目指したいと考えている生徒を支援し、自衛官という職業が選択肢のひとつとなることを期待して積極的に支援していく」としている。

自衛隊音楽祭り

カレッジ防衛モニター 青木 健史

動く、動く、動く。華やかな楽隊が武道館を一面に使って次から次に隊列を組み直す。勇ましいマーチ、テンポのよいジャズ・ミュージック。それぞれの音楽性に合わせて寸分の狂いなく動きを変えてゆく様子は、まるでひとつの生き物を見ているようでもあった。それは、陸海空三自衛隊で最も華やかな、音楽隊が生み出す、ハーモニーであったのである。

11月14日、武道の聖地日本武道館では自衛隊音楽まつりが開催された。普段は儀礼や座奏によるコンサートで私たちを楽しませてくれている音楽隊が、この日は統制のとれたドリル演奏を行うのである。

今年のテーマは「道」。陸のみならず海の道、空の道、そして戦後自衛隊が歩いてきた道…。毎年音楽まつりに彩を添えてくれるアメリカ軍音楽隊や各国との絆を深めてきたこれまでの歩みという意味もあるらしい。

交流ステージでは各国音楽隊との合同演奏や、「歌姫」たちによるセッションもあり、まさしくこれまでの絆の道を見ることができた。また、全国からこの日の為に集った各駐屯地や基地の和太鼓集団による「自衛隊太鼓」は、武道館を埋め尽くす凄まじい数の和太鼓とともに、地響きにも似た圧巻の演奏を披露した。自衛隊での和太鼓は、海外部隊との交流などで、日本文化の家徴として大変人気を博すらしい。そんな和太鼓もここに極まり、という力強い演奏は、自衛隊ならではの力強さを感じたのであった。

そして、ステージは終盤へと向かう、ここで印象的なひとコマがあった。それは、裏方としてステージのセットや準備、片付けなどを行っていた演技支援隊と呼ばれる彼等にスポットライトが当てられ、その活動が紹介されたことであつた。普通のライブや演奏会では、こうした裏方にはスポットは当てられない。そこに敢えてスポットを当て、紹介する事に、いわば平和の緑の下の力持ちともいふべき自衛隊の懐の深さをしみじみと感じた。

音楽隊は、儀礼や式典のいわば盛り上げ役ともいふべき存在である。主賓や式典を彩る「裏方」である彼等が主役となり、さらにその裏方である演技支援隊や第301映像写真中隊など、様々な場面で「縁の下」を支えてくれている者たちにもスポットを当てて行われる自衛隊音楽まつり。今日という平和な日常の、縁の下の緑の下の緑の下に、今日も音楽が鳴り響いていると思うと、少しだけ日々が明るく楽しくなってくる、そんなことを感じられる1日となつたのであつた。

「総合的な学習の時間」を支援



土嚢づくり体験をする生徒



戦車の前で記念撮影

神奈川地方協力本部横須賀地域事務所(所長 大里3海佐)は、11月19日(木)、20日(金)の2日間、横須賀市立衣笠中学校に対する「総合的な学習の時間」を支援した。

初日は、東部方面混成団において、陸上自衛隊の職種と制服の職種徽章について、また、階級についてはアニメを使って説明を受けた。ロープワークの学習では、ビニールテープをはさみを使わずに切る方法など、コツをつかむために皆真剣に取り組んでいた。午後は土嚢作りを行い、前日の雨で少しぬかるんだ運動場で汗を流し、土嚢の重さ、設置の難しさを体験した。翌日は、航空自衛隊第2高射隊を見学し、高射隊が装備する炊事車両や軽装甲機動車の性能の高さについて説明を受けた。その際、タイヤに興味を持つ生徒の一人は、車両ごとにタイヤ関連の質問をしていた。また、地元横須賀の生徒ではあつたが自分の生活する地域に今まで想像もしていなかった様々な施設があることに驚いていた。

横須賀地域事務所は、「今後も、総合的な学習の時間を積極的に支援し自衛隊について知る機会を増やし募集につなげていく」としている。